

科 目	解剖学Ⅵ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参考書	「解剖学講義」 伊藤隆 原著 (南山堂) 「ネッター解剖学図譜」フランク・H・ネッター 著 (丸善株式会社) 他に授業時に配布する資料を参考にする。		
成績評価	定期試験の結果による。		
留意事項	復習をして授業に臨むこと。		

科目の目標	解剖学の概説を学び、続いて内臓系、運動器系、神経感覚系の構造と機能を知り、最終的には局所的構造を理解し、臨床科目や鍼灸実技で活用できる知識を構築する。		
授業概要	人体を構成する組織、各器官の各部位・各臓器の正確な名称を把握する。 また、各器官のつながりや走行などの局所解剖としての位置関係と役割を理解する。		

日程

回数	授業内容
1	解剖学概論
2	解剖学総論 組織
3	循環器①
4	循環器②
5	呼吸器
6	消化器
7	泌尿器
8	生殖器
9	内分泌器
10	中枢神経
11	末梢神経
12	感覚器
13	運動器
14	局所解剖
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学総論Ⅱ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参考書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「写真で学ぶ整形外科テスト法」 ジョセフ J・シプリアーノ著 (医道の日本社) 「診察と手技がみえる」 田邊政裕編集 (メディックメディア)		
成績評価	定期試験		
留意事項	基礎となる解剖学、生理学の復習や鍼灸臨床評価実習と併せた学習を行うこと。		

科目の目標	医療従事者として臨床に不可欠な診察法、検査法の基礎知識を身に付け、鍼灸臨床に応用できる能力を養う。またその知識を活用し患者の訴える症状から正しい鑑別診断ができることを目標とする。
授業概要	症状・所見から疾患や弁証に結び付けられるように、それぞれの特徴について講義する。また、患者が訴える症状の原因疾患は何か、病態生理を把握しながら学習する。

日程

回数	授業内容
1	授業概要 診察の方法、 生命徴候
2	全身の診察 ①
3	全身の診察 ②
4	全身の診察 ③ 局所の診察 ①
5	局所の診察 ②
6	局所の診察 ③
7	神経系の診察 ①
8	神経系の診察 ②
9	運動機能検査 ①
10	運動機能検査 ②
11	臨床検査法
12	頭痛・咳痰・息切れ・動悸・口渇
13	排尿障害・便秘・下痢・月経異常・易感染症
14	意識障害・ショック・吐血下血・血痰喀血・出血傾向・貧血
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床医学各論Ⅲ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	與那覇 真樹	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学各論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「病気がみえる Vol. 7 脳・神経」 医療情報科学研究所 編集 (メディックメディア) 「全部見える 脳・神経疾患」 服部光男 監修 (成美堂出版) 「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「臨床医学総論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	解剖学・生理学(免疫系、循環系、神経系、筋・運動系など)の復習をして、不得意な領域をなるべく少なくしておく事。特に神経系の記載は柔道整復学科教科書と重ならない部分もあるので、注意してください。 病理学概論や臨床医学総論の専門用語も必要となるので注意してください。

科目の目標	神経系疾患の病態生理を把握し、症状や検査結果が類似する疾患を鑑別できる視点を養う事を目指す。
授業概要	神経系の構造・機能の知識に基づき、各神経系疾患の概念(病理や疫学上の特徴)・症状(自覚症状・他覚所見など)・診断(検査方法・検査結果など)・治療(薬物投与や手術などの種類など)・経過予後(生命予後や後遺症の有無など)を学習する。

#### 日程

回数	授業内容
1	神経系の解剖学・生理学①
2	神経系の解剖学・生理学②
3	脳血管疾患①：脳梗塞(脳血栓/脳塞栓)、一過性脳虚血発作
4	脳血管疾患②：脳出血、クモ膜下出血 感染性疾患：髄膜炎(ウイルス性髄膜炎(ポリオなど)、細菌性・結核性・真菌性髄膜炎)
5	脳・脊髄腫瘍①：脳腫瘍、神経膠腫、髄膜腫、転移性脳腫瘍
6	脳・脊髄腫瘍②：下垂体腺腫、神経鞘腫、脊髄腫瘍
7	基底核変性疾患：パーキンソン病、ハンチントン舞踏病、脳性小児麻痺、ウィルソン病
8	その他変性疾患：脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、パーキンソニズムを生じる疾患群
9	認知症性疾患：認知症(アルツハイマー病およびアルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、脳血管型認知症(多発脳梗塞型認知症)、ピック病、一般身体疾患に伴う認知症)

1 0	アレルギー性の神経および神経筋接合部での疾患： 重症筋無力症、ランバートイートン症候群、ギランバレー症候群、多発性硬化症、
1 1	筋疾患：重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー、筋強直性筋ジストロフィー 運動ニューロン疾患：筋萎縮性側索硬化症、(シャルコー・マリー・トゥース病)
1 2	末梢神経障害：ギランバレー症候群、圧迫性・絞扼性ニューロパシー、ベル麻痺、 ラムゼーハント症候群 神経痛：三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛
1 3	機能的疾患：緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛などの一次性頭痛、二次性頭痛の一部など
1 4	まとめ、試験の概要説明
1 5	定期試験
1 6	解答と解説

科 目	医療倫理	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	太田 和幸	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	「社会あはき学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験による
留意事項	医療ならびに職業について、自身で考えを持って授業に参加する。

科目の目標	医療人が患者様から信頼を得るためにはどうすればよいかを考える。また、鍼灸業界のいろいろを知り、鍼灸師としてとるべき態度はいかなるものか、治療者に必要なものは何か、そして何のために鍼灸師になろうと思ったのかを考え、目的を持った学生生活を送るための課題を考えていく。
授業概要	治療者としての基本的な心構え、知識を共に考えていくとともに、目標および目的を設定していく。

日程

回 数	授業内容
1	目的および目標
2	理想の医療人（鍼灸師）とは
3	鍼灸の現場の現状
4	医療の倫理と職業倫理
5	職業としての鍼灸
6	現代の課題、諸問題
7	定期試験
8	総括および総まとめ

科 目	関係法規	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	16
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	下山 隆朗	教員区分	一般教員

教科書	「関係法規 第7版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版)
参考書	特になし
成績評価	定期試験
留意事項	法律は毎年改正されます。過去資料の使用には十分注意すること。 進行状況により、シラバスの内容が変更されることもあります。 教科書を持参すること。

科目の目標	医療従事者として必要な法律の知識を理解し、携われる業務の境界線を理解する。
授業概要	法律の仕組みと、あはき師法、医療法、医師法を含む諸法規の知識を理解する。

日程

回 数	授業内容
1	法律とは あはき師法とは
2	あはき師法 詳細
3	あはき師法 詳細
4	諸法規
5	諸法規
6	まとめ
7	定期試験
8	解答解説

科 目	はりきゅう理論	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教 員 名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「はりきゅう実技<基礎編>」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
成績評価	定期試験を8割、小テストを2割として総合評価をする。 総合評価、または定期試験が60点に満たない者は再試験とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。 教科書・プリントは指示がなくても毎回すること。 授業内容を復習すること。 進行状況により、シラバスの内容が変更される場合あり。

科目の目標	本科目は「鍼」と「灸」の基礎知識を学び、そのリスクについて理解することを目標とする。
授業概要	鍼灸臨床で用いる器具、技術、衛生的処置をきちんと理解し実践できること。 鍼灸療法の禁忌やリスク、副作用について理解し把握すること。

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション、概論
2	リスク管理(感染症対策)
3	鍼の基礎知識①
4	鍼の基礎知識②、刺鍼の方式と術式①
5	刺鍼の方式と術式②
6	特殊鍼法
7	灸の基礎知識
8	灸術の種類
9	鍼灸の臨床応用①
10	鍼灸の臨床応用②
11	鍼灸の臨床応用③
12	リスク管理①
13	リスク管理②
14	総合演習
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	経絡経穴概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	内藤 玄吾	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参考書	「ツボがある本当の意味」	栗原誠 著	(BABジャパン)
	「針灸学 [経穴編]」	兵頭明 翻訳	(東洋学術出版社)
	「経穴主治症総覧」	池田政一 編著	(医道の日本社)
	「臨床経穴ポケットガイド」	篠原昭二 著	(医歯薬出版)
	「鍼灸経穴辞典」	天津中医薬大学 編	(東洋学術出版社)
成績評価	定期試験による評価		
留意事項	授業内で経穴名, 取穴法が覚えられるよう集中して臨むこと。 授業内だけで覚えられる量では無いので, 自宅での学習に努めること。 進行状況に応じシラバスは前後します。		

科目の目標	経絡経穴についての基礎的知識 (経絡名・経穴名・取穴部位) を理解習得し, 鍼灸師としての基礎を作る。
授業概要	講義と体, イラストを使用した形式で実施する。繰り返し同じ図を用いることで印象を深めていく。授業開始時に小テストを実施し, 理解度を確認する。



日程

回数	授業内容
1	1章 経絡・経穴の基礎, 2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経①
2	2章 十四経脈とその経穴 手の太陰肺経②, 手の陽明大腸経①
3	2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経②
4	2章 十四経脈とその経穴 手の陽明大腸経③
5	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経①
6	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経②
7	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経③
8	2章 十四経脈とその経穴 足の陽明胃経④
9	2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経①
10	2章 十四経脈とその経穴 足の太陰脾経②
11	2章 十四経脈とその経穴 手の少陰心経, 手の太陽小腸経①
12	2章 十四経脈とその経穴 手の太陽小腸経②
13	2章 十四経脈とその経穴 督脈, 任脈
14	まとめ
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	東洋医学概論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	飯塚 聡	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	適宜、紹介をする
成績評価	小テスト・定期試験の結果を主に、授業へ参加する姿勢も考慮の対象とする。
留意事項	遅刻・欠席をしないこと。復習する習慣をつけ疑問を持ち越さないこと。

科目の目標	東洋医学についての基礎的な知識を学び、専門用語を理解する。 東洋医学的な人体の見方や病理を理解し、国家試験や臨床に応用する力をつける。
授業概要	東洋医学の歴史や哲学、人体の見方やその生理・病理を学ぶ。

日程

回数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴：東洋医学の沿革・人体の見方・東洋医学的治療
2	第3章 東洋医学の思想：陰陽学説
3	第3章 東洋医学の特徴：五行学説
4	第2章 生理と病理：生理物質と神（生理物質）
5	第2章 生理と病理：生理物質と神（神）
6	第2章 生理と病理：生理物質と神（人体における陰陽）
7	第2章 生理と病理：蔵象学説
8	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肝・1）
9	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（肝・2、胆）
10	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（心・1）
11	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（心・2、小腸）
12	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（脾・1）
13	第2章 生理と病理：五臓とその機能に関連した領域（脾・2、胃）
14	前期の復習：定期試験に向けて
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	鍼基礎実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	北園 実鈴	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	実技試験・授業態度・出席状況による総合評価。 実技試験が6割以下の者、もしくは総合評価が6割以下の者は再試験とする。
留意事項	実習内容について毎日反復練習に努めること。 体調をしっかりと管理し、遅刻・欠席をしないこと (欠席-4点、遅刻・早退-2点、ふさわしくない身だしなみ-2点)

科目の目標	刺鍼の基本および身体各部への安全な刺鍼法を習得する。 鍼灸師として施術に必要な衛生概念を身につける。
授業概要	刺鍼に必要な基礎知識を学習する。衛生管理 (用具・手指などの清潔保持、消毒)、医療過誤の概要を学ぶ。安全に適切な刺鍼が行えるよう基礎技術を習得する。

実務経験	鍼灸接骨院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った刺鍼技術を授業に取り入れる

#### 日程

回数	授業内容
1	鍼の基礎知識① 手指の衛生管理
2	鍼の基礎知識② 姿勢、鍼の衛生的な準備、刺手、挿管
3	押手
4	前揉法～立管①、切皮①
5	部位消毒、前揉法～立管②、切皮②、抜鍼
6	鍼の基礎知識③ 部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ①
7	部位消毒～切皮 (各自：大腿部) ②、刺入練習 (刺鍼練習器など) ①
8	刺入練習 (刺鍼練習器など) ②、鍼尖感覚の練習
9	鍼の基礎知識④ 刺入練習 (各自：大腿部) ①
10	刺入練習 (各自：大腿部) ②

1 1	刺入練習（各自：大腿部）③
1 2	刺入練習（各自：大腿部）④
1 3	実技試験
1 4	実技試験
1 5	フィードバック
1 6	刺入練習（まとめ）

科 目	灸基礎実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
		実施学期	前期
教員名	内藤 玄吾	教員区分	実務教員

教科書	「はりきゅう実技<基礎編> 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「はりきゅう理論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	実技試験(70%), 課題提出(30%), 出席状況, 授業態度, 身だしなみによる総合評価. 実技試験が6割以下の者, もしくは総合評価が6割以下の者は再試験とする.
留意事項	火の取り扱いに十分注意し, 自宅でも反復練習に努めること. 医療従事者としてふさわしい服装で参加すること(ふさわしくない身だしなみ-2点). 体調をしっかりと管理し, 遅刻・欠席・早退をしないこと(欠席-4点, 遅刻・早退-2点).

科目の目標	灸に関する基礎的な知識, 技術を習得し, 灸施術における動作を安全かつ正確に行える能力・態度を身に付ける.
授業概要	灸の基礎知識を学び, 施灸の基礎技術を習得する.

実務経験	付属左門町鍼灸院で勤務
実務経験と授業の関連	臨床で培った技術を授業に取り入れる

日程

回数	授業内容
1	授業の概要と進め方, 実習上の諸注意, 備品の取り扱い・準備について
2	灸の基礎知識①, 施灸練習(艾のひねり方, 艾の立て方)①
3	灸の基礎知識②, 施灸練習(艾のひねり方, 艾の立て方)②
4	施灸練習(線香の使い方, リスク管理)
5	施灸練習(点火)①
6	施灸練習(点火)②
7	施灸練習(灸温度計)
8	施灸練習(紙への施灸)①
9	施灸練習(紙への施灸)②
10	施灸練習(紙への施灸)③

1 1	施灸練習（紙への施灸）④
1 2	施灸練習（紙への施灸）⑤，実技試験説明
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	試験のフィードバック
1 6	総復習

科 目	トレーニング実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	1年次
教員名	小笠原 京哉	実施学期	前期
		教員区分	一般教員

教科書	適宜資料を配布
参考書	「解剖学 第2版」(公社) 東洋療法学校協会 編 (医師薬出版) 「生理学 第3版」(公社) 東洋療法学校協会 編 (医師薬出版) 「スポーツ医学検定 1級」 一般社団法人日本スポーツ医学検定機構 (東洋館) 「JATI トレーニング指導者 理論編」日本トレーニング指導者協会 編 (大修館) 「JATI トレーニング指導者 実践編」日本トレーニング指導者協会 編 (大修館)
成績評価	課題試験(80%)、小テスト(20%)、欠席(-6点)、遅刻・早退(-2点)、授業態度による総合評価。 課題試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験とする。
留意事項	遅刻や欠席をしないこと。正当な理由がない場合はマイナス点の評価になる。 スマホや授業以外の行為をしているものや授業に参加していないと見受けられたものはマイナス点の評価となる。 動きやすい服装を準備すること。 基礎となる解剖学・生理学と併せた学習を行うこと。 ※授業内容は進行状況で一部変更することもある。

科目の目標	運動器の解剖・生理について理解し、トレーニングの基礎知識を身に付け、鍼灸臨床やスポーツ現場に応用できる能力を養う。
授業概要	解剖学・生理学の知識を基に、ペアまたはグループで筋骨格系の運動を体験する。

#### 日程

回数	授業内容
1	体力学総論
2	トレーニング理論
3	運動生理学
4	スポーツ医学
5	コンディショニング論
6	ストレッチ理論
7	評価・プログラム設計①
8	評価・プログラム設計②
9	評価・プログラム設計③
10	トレーニング演習①

1 1	トレーニング演習②
1 2	トレーニング演習③
1 3	トレーニング演習④
1 4	総まとめ
1 5	課題試験
1 6	解答・解説



科 目	医療概論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	16
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	原島 基	教員区分	一般教員

教科書	「医療概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
参考書	「新版 東洋医学概論」	(公社)東洋療法学校協会編	(医道の日本社)
	「50の事物で知る 図説 医学の歴史」	Gill Paul 著, 野口正雄 翻訳	(原書房)
	「まんが 医学の歴史」	茨木保 著	(医学書院)
成績評価	定期試験		
留意事項	教科書を必ず持参すること。 授業内容の復習を心掛けること。		

科目の目標	西洋医学、東洋医学、日本の医学の変遷について理解を深める。 また、現代の医療制度や医療倫理を理解する。
授業概要	医療の変遷を学習し、その全体像を理解する。 国家試験に出題される内容の要点を理解する。

日程

回数	授業内容
1	第1章 医療概論とは・西洋医学史
2	第1章 西洋医学史
3	第1章 東洋医学史・日本医学史
4	第2章 現代の医学
5	第2章 医療制度
6	第3章 医療倫理
7	定期試験
8	解答解説

科 目	経絡経穴概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	棚田 徹也	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」東洋療法学校協会編（医道の日本社）		
参考書	「新版 東洋医学概論」（公社）東洋療法学校協会編（医道の日本社） 「新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）」（公社）東洋療法学校協会編（南江堂） 「中医薬大学全国共通教材 全訳 経絡学」李鼎主編・浅野周訳（たにぐち書店 2000年） その他、授業内で随時紹介する。		
成績評価	定期試験で60%に満たない場合再試験となる。		
留意事項	実技等他教科においても経絡・経穴との関連を常に意識されたい。		

科目の目標	経絡経穴の基礎知識を拡充し、臨床における選穴の基本を身に付ける。		
授業概要	経脈の成り立ちと流注の特徴、及び各経脈病証との関係を理解し、臨床応用の基礎を身に付ける。要穴の種類とその意味、使用法について整理し身に付ける。 病証に応じた選穴法について学ぶ。主要な経外奇穴の部位と適応を習得する。		

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、経絡経穴の歴史、選穴法の種類
2	循経取穴と経脈流注、経脈病証 1.
3	循経取穴と経脈流注、経脈病証 2. 要穴の概要
4	循経取穴と経脈流注、経脈病証 3. 要穴①
5	循経取穴と経脈流注、経脈病証 4. 要穴②
6	循経取穴と経脈流注、経脈病証 5. 要穴③
7	循経取穴と経脈流注、経脈病証 6. 要穴④
8	要穴の用法 交会穴
9	経験的選穴法 特効穴 経外奇穴①
10	奇経八脈の流注と病証・経穴 1. 経外奇穴②
11	奇経八脈の流注と病証・経穴 2. 経外奇穴③
12	奇経八脈の流注と病証・経穴 3.
13	八脈交会穴 病証に応じた選穴法
14	総復習
15	定期試験
16	解説・解答、補足

科 目	東洋医学臨床論 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単 位 数	2
		時 間 数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	石田 大弥	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論くはりきゅう編」(公社)東洋療法学校協会編 (南江堂) 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	プリントを配布
成績評価	定期試験
留意事項	東洋医学概論、経絡経穴の知識が必要となる授業です。

科目の目標	各愁訴・疾患における東洋医学的な病因病機を理解し、鍼灸処方を組み立てられること
授業概要	東洋医学的な病因病機・処方を座学形式で学ぶ

日程

回 数	授業内容
1	オリエンテーション/1年生の復習(臓腑、生体物質の生理・病理)
2	1年生の復習(四診)/鍼灸臨床
3	治療穴とその応用
4	手技と手法
5	頭痛
6	顔面痛/関節痛
7	頸肩腕痛/上肢痛/肩関節痛/膝痛
8	腰下肢痛/腰痛/下肢痛
9	胸痛/腹痛
10	眼精疲労/気分障害(うつ状態)
11	めまい/動悸・息切れ
12	血圧異常/睡眠障害
13	食欲不振/肥満
14	やせ(るい瘦)/悪心・嘔吐
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	現代医学臨床論Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	椎野 崇	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」(公社)東洋療法学校協会編 (南江堂)
参考書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ」 矢野 忠 編集 (文光堂)
成績評価	期末試験により評価する。60点未満の場合は再試験とする。
留意事項	積極的に受講し、授業内容を復習すること。関連する解剖学、生理学、臨床医学、経絡経穴も合わせて復習すること。教科書・プリントは指示がなくても毎回持参すること。進行状況によりシラバスの内容が変更される場合あり。

科目の目標	レッドフラッグを含む疾患の鑑別ができるようになること、患者に対し病態、治療の効果およびリスク、予後、生活指導などが説明できるようになること、実際に適切に治療できるようになることを目標とする。
授業概要	疾患ごとに教科書に沿って解説し、臨床で実践できるように講義する。

日程

回数	授業内容
1	疼痛概説、排尿障害、歩行異常
2	血圧異常、睡眠障害
3	食欲不振、肥満
4	便秘、下痢
5	咳嗽と喀痰、鼻閉・鼻汁
6	脱毛症、ED (勃起障害)
7	疲労と倦怠感、気分障害 (うつ状態)
8	冷え、のぼせ
9	浮腫、掻痒感 (痒み)、肌荒れ、発疹
10	月経異常、不妊症
11	つわり、骨盤位
12	小児特有の症候
13	老年特有の症候
14	まとめ
15	定期試験
16	定期試験の解答と解説

科 目	臨床評価実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	原島 基	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「リハビリテーション医学 第4版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
参考書	「診断と手技がみえる①」 (メディックメディア) 「病気がみえるシリーズ」 (メディックメディア)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回-4点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験が60点未満の者、総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	授業に関連する項目の予習・復習 (解剖学・生理学・臨床医学総論・リハビリテーション医学) に努めること。 シラバス・資料を参照し、授業がスムーズに行える服装で臨むこと。

科目の目標	鍼灸臨床の場で用いる事が出来る所見や評価項目を習得する。 所見や評価項目を用い、患者の病態や経過を推察する能力を身につける。
授業概要	所見や評価項目の意義や方法を資料や教員のデモンストレーションにて理解し、学生同士で練習を行う。 各所見や評価項目毎に知識を整理する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、徒手筋力検査①
2	徒手筋力検査②
3	徒手筋力検査③
4	徒手筋力検査④
5	反射検査①
6	反射検査②
7	反射検査③
8	感覚検査①
9	感覚検査②
10	脳神経の検査①
11	脳神経の検査②

1 2	脳神経の検査③
1 3	総復習
1 4	実技試験
1 5	フィードバックと評価
1 6	検査と評価のまとめ

科 目	臨床経穴実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	内藤 玄吾・割田 萌	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版) 「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」(医学書院) 「カラー版 経穴マップ 第2版」王 曉明(医歯薬出版株式会社)
成績評価	実技試験、出席点(1回欠席-6点・遅刻・早退-2点)、授業態度(ふさわしくない身だしなみ1回-4点)を総合的に評価する。 実技試験もしくは総合評価が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	経絡経穴概論の教科書を必ず持参すること。 必ず経穴名と部位の予習をして授業に臨み、復習をすること。 シラバスを参照し、取穴し易い服装で臨むこと。 小テストが規定の点数に満たない者は随時再テストを実施する。

科目の目標	経絡の流注を理解し、経穴の取穴法を習得する。 経穴の部位と局所解剖についても学習し習得する。
授業概要	四肢の経穴を中心とした取穴を行う。 小テストによる知識の確認、担当教員による局所解剖と取穴の説明・デモンストレーション、各自での触擦・取穴を行う。

日程

回数	授業内容
1	足の少陽胆経①
2	足の少陽胆経②、足の厥陰肝経
3	要穴1
4	要穴2
5	要穴3
6	要穴4
7	要穴5
8	要穴6
9	要穴7
10	要穴8

1 1	要穴 9
1 2	要穴 1 0
1 3	実技試験①
1 4	実技試験②
1 5	実技試験フィードバック
1 6	総復習



科 目	触診触擦実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	浅野 貴之	教員区分	一般教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 <はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回-4点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。</li> <li>・ 1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。</li> <li>・ <u>授業中に</u>できるだけ多くの人々の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも触察できるようにすること。</li> <li>・ 臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。</li> <li>・ 触察部位の露出しやすい服装を心がけること。</li> <li>・ 触察部位の構造 (骨、筋、靭帯、神経、血管) を必ず<u>復習</u>しておくこと。</li> </ul>

科目の目標	「現代医学臨床論 I」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に触察および患者を想定した、触診 (触り方) を習得する。さらに、体格 (男女や筋の発達度合い、脂肪の量など) による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の触察・触診見本を提示し、感触を経験した後に、各ペアで触察・触診をおこなう。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な触診方法
2	通電機器説明および物理療法の禁忌・適応について・前脛骨筋触擦
3	肩こりの診察および触擦：大・小菱形筋、僧帽筋(上部・中部)、肩甲挙筋
4	頸肩腕痛の診察および触擦①：頸椎棘突起および椎間関節
5	頸肩腕痛の診察および触擦②：頸椎横突起、前・中斜角筋、小胸筋、鎖骨下筋
6	肩関節痛の診察および触擦：肩甲骨、三角筋、棘上筋、棘下筋、大・小円筋、広背筋 上腕三頭筋長頭(肩の外側腋窩隙)、結節間溝
7	肘痛の診察および触擦：上腕骨外側上顆、R-H ギャップ、総指伸筋、腕橈骨筋、 長・短頭側手根伸筋、尺骨神経溝
8	腰部痛の診察および触擦：腸骨稜、腰椎棘突起、鼠径靭帯(筋裂孔) 多裂筋、腸腰筋(気衝穴から)
9	下肢痛の診察および触擦：上後腸骨棘、大腿骨大転子、梨状筋、大腿二頭筋長頭、半腱様筋
10	膝痛の診察および触擦：大腿骨および脛骨内側・外側上顆、下肢動脈 大腿四頭筋、大・長内転筋、膝窩筋、膝窩動脈
11	下腿痛の診察および触擦：前・後距腓靭帯、踵腓靭帯、 長・短腓骨筋、前脛骨筋、腓腹筋、ヒラメ筋
12	頭痛の触診および触擦：浅側頭動脈、大耳介神経溝、上頭斜筋、大・小後頭直筋
13	手部痛：手根管(舟状骨、月状骨、豆状骨)、CP・MP・IP 関節
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	鍼灸応用実習Ⅰ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	2年次
		実施学期	前期
教員名	浅野 貴之	教員区分	実務教員

教科書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論 くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
参考書	「プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論・運動器系」 (医学書院)
成績評価	実技試験、出席点 (1回欠席-6点・1回遅刻・早退-2点)、授業態度 (ふさわしくない身だしなみ1回-4点)、授業参加度 (モデルなど) を総合的に評価する。 実技試験点が60点未満の者、あるいは総合点が60点未満の者は再試験の対象とする。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。</li> <li>・ 1回完結の授業の為、できるだけ休まないこと。</li> <li>・ <u>授業中</u>にできるだけ多くの人の体を借りて、経験を積むことでどんな体格でも刺鍼できるようにすること。</li> <li>・ 臨床実習を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。</li> <li>・ 刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。</li> <li>・ 刺鍼部位の構造 (骨、筋、靭帯、神経、血管) を必ず復習しておくこと。</li> </ul>

科目の目標	「現代医学臨床論Ⅰ」で学習した各部位における症候に対し、障害を起こしやすい組織 (筋・神経・関節など) を中心に刺鍼方法を習得する。 さらに、男女や筋の発達度合い、脂肪の量による違いを経験する。
授業概要	局所解剖に基づいて、各症候で障害を起こしやすい組織の刺鍼見本を提示し、鍼尖の感触を経験した後に、各ペアで刺鍼練習をおこなう。

実務経験	鍼灸院を開業
実務経験と授業の関連	臨床で培った鍼灸の技術を授業に取り入れる

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション・基本的な刺鍼方法、顔面部刺鍼
2	鍼通電療法(EAT)の実際、前脛骨筋
3	肩こりの刺鍼：僧帽筋(上部線維)、肩甲挙筋
4	頸椎症の刺鍼：頸部椎間関節
5	胸郭出口症候群の刺鍼：前・中斜角筋、小胸筋、鎖骨下筋
6	肩痛の刺鍼：三角筋、棘上筋、棘下筋、大・小円筋 上腕二頭筋長頭(刺鍼のみ) 肩甲上神経-腋窩神経パルス
7	肘痛の刺鍼：総指伸筋、腕橈骨筋、長・短橈側手根伸筋、尺側手根伸筋 尺骨神経パルス、R-Hギャップ(刺鍼のみ)
8	腰部痛の刺鍼：腸腰筋(筋裂孔より)、多裂筋、
9	坐骨神経痛の刺鍼：梨状筋、坐骨神経、総腓骨神経、脛骨神経
10	膝痛の刺鍼：大腿四頭筋、大・長内転筋、膝窩筋、膝窩動脈
11	下腿痛の刺鍼：長・短腓骨筋、腓腹筋(外側頭・内側頭)、ヒラメ筋
12	頭痛の刺鍼：浅側頭動脈(刺鍼のみ)、頭板状筋、頭棘筋、大・小後頭神経、大耳介神経
13	手部痛：正中神経
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	3
		時間数	135
		履修年次	2年次
		実施学期	前・後期
教員名	浅野 貴之 他	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	評価表に基づく。1～40回目までを前期、41～68回目を後期の評価対象とする。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者対応ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 臨床実習上で必要な各種の動作を学ぶ

日程【前期】

回数	授業内容
1	
2・3	
4	
5・6	
7	
8・9	
10	
11・12	・オリエンテーション
13	・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い
14・15	接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握
16	鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、
17・18	抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
19	
20・21	
22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	

31・32	・オリエンテーション
33・34	・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い 接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ
35・36	
37・38	
39・40	

科 目	解剖学Ⅶ	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	山口 智也	教員区分	一般教員

教科書	配布プリント
参考書	「解剖学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)
成績評価	定期試験
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。

科目の目標	総合的におこない基礎力と応用力を固め、考える力を養う。
授業概要	解剖学を中心に総合的に行う。

日程

回数	授業内容
1	解剖学総復習 1
2	解剖学総復習 2
3	解剖学総復習 3
4	解剖学総復習 4
5	解剖学総復習 5
6	解剖学総復習 6
7	解剖学総復習 7
8	解剖学総復習 8
9	解剖学総復習 9
10	解剖学総復習 10
11	解剖学総復習 11
12	解剖学総復習 12
13	解剖学総復習 13
14	解剖学総復習 14
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	臨床医学総合論	分野区分	専門基礎
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	「臨床医学総合論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 配布プリント		
参考書	「臨床医学各論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「病理学概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「生理学 第3版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版)		
成績評価	定期試験		
留意事項	欠席をしないこと。 復習を必ず行い、記憶すること。		

科目の目標	総合的に考える力を養い、応用力をつける。
授業概要	臨床医学総合論を中心に総合的に行う。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、臨床医学総合論①
2	臨床医学総合論②
3	臨床医学総合論③
4	臨床医学総合論④
5	臨床医学総合論⑤
6	臨床医学総合論⑥
7	臨床医学総合論⑦
8	臨床医学総合論⑧
9	臨床医学総合論⑨
10	臨床医学総合論⑩
11	臨床医学総合論⑪
12	臨床医学総合論⑫
13	臨床医学総合論⑬
14	臨床医学総合論⑭
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括



科 目	経絡経穴概論Ⅳ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	北園 実鈴	教員区分	一般教員

教科書	「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 適宜プリントを配布
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論<はりきゅう編>」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	定期試験8割、暗唱2割(指定された期日までに行うこと)による総合評価 定期試験もしくは総合評価が6割未満の者は再試験とする。
留意事項	十四経について所属する経穴名が暗唱できること。 欠席をしないこと。 予習・復習を必ず行い、記憶すること。 鍼灸師として必要な経穴の知識を確認しておくこと。

科目の目標	経絡経穴概論の基礎力を固め、考える力を養う。
授業概要	経絡経穴概論の内容を総合的に行う。

#### 日程

回数	授業内容
1	十四経書き取り①
2	十四経書き取り②
3	流注・骨度法
4	取穴部位・要穴①
5	取穴部位・要穴②
6	取穴部位・要穴③
7	取穴部位・要穴④
8	取穴部位・要穴⑤
9	取穴部位・要穴⑥
10	取穴部位・要穴⑦
11	取穴部位・要穴⑧
12	奇経・奇穴など
13	頸部・顔面・頭部：取穴部位
14	取穴部位のまとめ
15	定期試験
16	解答と解説、授業総括

科 目	東洋医学概論Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	講義
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	黒岩 太	教員区分	一般教員

教科書	「新版 東洋医学概論」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
参考書	「東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」(公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)		
成績評価	定期試験		
留意事項	配布する資料を必ず持参すること。必ず復習を行うこと。		

科目の目標	東洋医学概の知識と応用力の習得を目標とする。		
授業概要	東洋医学概論Ⅰ、Ⅱの復習を行う。		

日程

回数	授業内容
1	ガイダンス 陰陽・五行論
2	精・気・血・津液と神の生理・病理
3	八綱弁証
4	肝・胆の生理・病理
5	心・小腸の生理・病理
6	脾・胃の生理・病理
7	肺・大腸の生理・病理
8	腎・膀胱の生理・病理
9	経脈病証
10	東洋医学的診察法と証の立て方 (難経六十九難等)
11	東洋医学的診察法と証の立て方 (鍼灸の補瀉・古代刺法等)
12	東洋医学的診察法と証の立て方 (その他)
13	総復習①
14	総復習②
15	定期試験
16	解答・解説

科 目	臨床鍼灸学Ⅲ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	演習
		履修区分	必修
		単位数	2
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	小笠原 京哉 他	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	各授業内で適宜紹介する
成績評価	出席点と実技態度による総合評価。
留意事項	1テーマごとに連続性をもって講義を行うので、欠席をしないようにすること。

科目の目標	様々な鍼灸治療の方法に触れ、鍼灸師としての知見、技術を深める。
授業概要	それぞれの業界で活躍する先生方をゲストにお呼びし、授業を行う。

日程

回数	授業内容
1	経絡リンパ治療①
2	経絡リンパ治療②
3	経絡リンパ治療③
4	経絡リンパ治療④
5	積聚治療①
6	積聚治療②
7	積聚治療③
8	積聚治療④
9	現代医学治療①
10	現代医学治療②
11	現代医学治療③
12	現代医学治療④
13	中医学治療①
14	中医学治療②
15	中医学治療③
16	中医学治療④

科 目	臨床応用実習 I	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単 位 数	1
		時 間 数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	金子 尚史	教員区分	一般教員

教科書	特になし。テーマに沿ったテキストにて配布。
参考書	「解剖学 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医歯薬出版) 「東洋医学臨床論くはりきゅう編」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「ネッター 解剖学アトラス」 F. H. Netter 著 (南江堂) 「クリニカルマッサージ」 James H. Clay 著 (医道の日本社) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系」 坂井建雄 監訳 (医学書院)
成績評価	出席 (1回欠席-6点・1回遅刻-2点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理 (睡眠、食事など) に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺鍼は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺鍼部位の構造 (骨、筋、靭帯、神経、血管) を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診、刺鍼技術の更なる向上と、様々な疾患に対して鍼灸治療を行うための、基本的な刺鍼技術や鍼通電技術を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学 (解剖学、生理学) と実技実習 (鍼基礎実習 I・II・III・IV、臨床評価実習 I・II、鍼灸応用実習 I・II) の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の、基礎となるパルス治療、特に筋パルスの技術を獲得する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション (鍼について、灸について)、刺鍼 (基礎)、リスクマネージメント…安全に刺鍼するには
2	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺鍼法①肩甲骨周囲
3	身体バランスの見方、上肢、上肢帯の経穴刺鍼法②前胸部、上肢
4	背部筋を使って反応部位の探し方と刺激量の調節の仕方――
5	身体バランスの見方、体幹部 (背部) 刺鍼法①
6	身体バランスの見方、体幹部②腹部 兪募配穴との組み合わせ

7	下肢帯①(骨盤, 股関節)刺鍼法
8	下肢帯②(骨盤, 股関節, 下腿)刺鍼法
9	局所治療①頸部(斜角筋)～肩関節刺鍼法
10	局所治療②膝刺鍼法
11	全身調整～後療法①
12	全身調整～後療法②
13	症状に応じた施術, 組み立て
14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床応用実習Ⅱ	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	橋本 巖	教員区分	一般教員

教科書	資料を配布する。
参考書	「日本鍼灸医学 経絡治療・基礎編」 経絡治療学会 「新版 東洋医学概論」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社) 「新版 経絡経穴概論 第2版」 (公社)東洋療法学校協会編 (医道の日本社)
成績評価	出席(1回欠席-6点・1回遅刻-2点)、相応しくない身だしなみ(-4点)、授業態度、実技試験を総合的に評価する。
留意事項	体調管理(睡眠、食事など)に努め、実習時に体調不良の場合は教員まで申し出ること。 1回完結の授業であるため、できるだけ欠席しないこと。 実習中はリスク管理に努め、無理な刺鍼は絶対にしないこと。 常に臨床を意識し、言葉使いや動作に細心の注意を払うこと。 刺鍼部位の露出しやすい服装を心がけること。 刺鍼部位の構造(骨、筋、靭帯、神経、血管)を必ず予習しておくこと。

科目の目標	触診、刺鍼技術の更なる向上をはかる。特に、経絡病証を考慮した治療を行うために必須な経絡流注の把握や基本的な切診技術、要穴の取穴と適切な刺鍼法を獲得する。
授業概要	2年間で学んだ基礎医学(解剖学、生理学)と実技実習(鍼基礎実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、臨床評価実習Ⅰ・Ⅱ、鍼応用実習Ⅰ・Ⅱ)の知識と技術を基にして、鍼灸院で多く受診される疾患に対して施術する場合の経絡治療を修得する。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション 経絡治療について、診察法概論(切診)、刺鍼の基礎(姿勢)
2	「肺経」流注と経絡病証・脈診(右寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の基礎(押手)
3	「肝虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼
4	「腎虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼
5	「脾虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼
6	「肺虚証」主証決定(脈診と六十九難)と対応する要穴刺鍼
7	「脾経」流注と経絡病証・脈診(右関上)と切経・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の基礎(刺手)
8	「心経」流注と経絡病証・脈診(左寸口)と切経・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の基礎(弾入)
9	「腎経」流注と経絡病証・脈診(左尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の応用(旋撚)
10	「心包経」流注と経絡病証・脈診(右尺中)と切経・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の応用(雀啄)
11	「肝経」流注と経絡病証・脈診(左関上)と切経・要穴と背部俞穴刺鍼、刺鍼の応用(催気)
12	体質別治療①
13	体質別治療②

14	実技試験
15	フィードバック
16	総復習

科 目	臨床実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	
		履修区分	
		単 位 数	2
		時 間 数	90
		履修年次	3年次
		実施学期	前・後期
教員名	浅野 貴之 他	教員区分	実務教員

教科書	特になし
参考書	特になし
成績評価	評価表に基づく。1～32回は前期での評価とし、33～48回は後期の評価とする。
留意事項	臨床の場にふさわしい服装、態度で臨むこと

科目の目標	実際の臨床現場をしっかりと把握、理解し、適切な行動、患者応対ができる
授業概要	鍼灸臨床に必要な患者対応の知識、技術を学習する 外部の病院や鍼灸院で実習を行い、知見を深める

実務経験	新宿医療専門学校附属左門町鍼灸院にて勤務
実務経験と授業の関連	臨床現場で経験した知識、技術を授業に取り入れる

日程【前期】

回 数	授業内容
1・2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・衛生管理、施術所内の環境把握、後片付け（原状復帰）、言葉遣い 接遇、カルテ内容の把握、ワゴン準備、施術ブース内の環境把握 鍼出し、リスク管理、患者誘導、タオルワーク、血圧測定、 抜鍼動作、廃棄物の処理、温灸の使い方、グループによるロールプレイ</li> </ul>
3・4	
5・6	
7・8	
9・10	
11・12	
13・14	
15・16	
17・18	
19・20	
21・22	
23・24	
25・26	
27・28	
29・30	
31・32	



科 目	総合実践実習	分野区分	専門
		講義又は実習の区分	実習
		履修区分	必修
		単位数	1
		時間数	32
		履修年次	3年次
		実施学期	前期
教員名	前窪 美香	教員区分	一般教員

教科書	特になし
参考書	「アロマコーディネーター講座」 JAA 著（日本アロマコーディネーター協会） 「Essential oil Guide book」 JAA 著（日本アロマコーディネーター協会）
成績評価	期末試験で評価する。
留意事項	欠席せず取り組むこと。

科目の目標	アロマの実用的な知識と技術を身につける。
授業概要	アロマのクラフト作成やトリートメントを通してアロマの効能について理解を深める。

日程

回数	授業内容
1	オリエンテーション、アロマの基礎知識①
2	アロマの基礎知識②、クラフト実習①
3	アロマの基礎知識③、クラフト実習②
4	アロマの基礎知識④、クラフト実習③
5	アロマの基礎知識⑤、クラフト実習④
6	アロマの基礎知識⑥、クラフト実習⑤
7	アロマの基礎知識⑦、クラフト実習⑥
8	トリートメント実習④
9	トリートメント実習⑤
10	トリートメント実習⑥
11	トリートメント実習⑦
12	トリートメント実習⑧
13	トリートメント実習⑨
14	定期試験
15	フィードバック
16	総復習